

# からくり新聞

2015年12月発行 からくり新聞第49号 編集:岩原真実  
〒250-0055 神奈川県小田原市久野3764-9 からくりクラブ事務局  
TEL 0465-32-3631 FAX 0465-32-3634 E-mail: info@karakuri.gr.jp

## からくりパズルフェスタ2015 終了しました!

様々な催しが行われた「からくりパズルフェスタ2015」が「大人のための工作教室 Part2」をもって終了しました。まずは、教室の様子についてご報告です。  
(からくりパズルフェスタのその他の催しについては前号をご覧ください。)

開催日: 2015年9月26日(土)

時間: 10:30~12:00

場所: 小田原地下街HaRuNe小田原 ハルネ広場

「吹き上げからくり箱」→



この「大人のための工作教室 Part2」は、「からくりパズルを楽しむ会」の工作教室も兼ねていました。参加者の中には、「からくりパズルを楽しむ会」に毎年参加されている海外からのお客様も数名いらっしゃいました。

今回皆さんに作っていただいたのは、「吹き上げからくり箱」。これは、箱根地方で作られていた「吹き上げ」をモチーフに開発された工作キットで、仕掛けを動かすと箱の中からタバコ（ここでは木製の棒で代用）が一本起き上がってくるというもの。講師は、からくり職人の岩原宏志が務めました。

ボンドの付き具合やちょっとしたズレによって仕掛けが動かなくなる可能性があるため、皆さんいつも以上に慎重に、真剣に取り組んでいらっしゃいました。



今回は初めてとなるオープン・スペースでの開催でした。 皆さん上手くできたでしょうか？

## 第5回 からくりパズルを楽しむ会 終了しました!

開催日: 2015年9月26日(土)・27日(日)

場所: 小田原地下街HaRuNe小田原ハルネ広場、小田原・箱根地域

第5回目を迎えた「からくりパズルを楽しむ会」は、初めてとなるオープン・スペースでの開催となりました。

昨年11月に開業した小田原地下街HaRuNe小田原ハルネ広場で、通りがかった皆様にもその場でご参加いただけるように趣向を凝らした企画も盛り込み、盛況のうちに無事終了しました。

前述の「大人のための工作教室 Part2」以外のイベントについては次号にて詳しくご報告いたします。

どうぞお楽しみに!



第5回 からくりパズルを楽しむ会 チラシ

# 二宮義之 個展「木楽10回展」 取材報告 (敬称略)

開催：2015年11月8日(日)～15日(日)  
場所：木楽(きらく)元店舗 (箱根湯本)

秋も深まりつつある11月。箱根湯本の旧道沿い、二宮の元店舗「木楽」にて第10回目となる個展「木楽10回展」が開催されました。通りに面した入口には茶色地の「木楽」の暖簾がかかり、訪れる人を迎えます。この暖簾をくぐるとその先に一体どんな空間が待っていてくれるのか、期待に胸を膨らませつつ、静かに中へ…。



↑上：入口には季節感漂う美しい菊が置かれ来場者を迎えます。建物の雰囲気によく合い、二宮の細やかな心遣いが感じられます。

←左端：「木楽」外観。向かって左は工房、右は居住スペース。二宮と共に歴史を刻んできた建物。旧道の趣にもよく合った、風情のある景色。

←左：手作りのポスターに、来場者を迎えるための花。



さて、中に入ると、こじんまりとした空間に、きれいにすっきりとそれぞれの作品が収められていて、見応え充分ながら、とても見やすい展示。各所に二宮の細部へのこだわりや、今回の個展への思い入れの強さが込められているのを感じます。

種類ごとに分類された作品は、組木・秘密箱・からくり箱の他、箆笥や文箱、大作の組木五重塔など、合計90点あまり。圧巻です。壁には過去に開催した個展のポスターや、コンクールで受賞した際の賞状、そして日々の仕事に使用する道具などがかけられ、これまでの職人としての歴史の一端を垣間見ることができます。

箱根細工職人の家に生まれ育ちながらも、実は幼少時代、箱根細工が嫌いだったという二宮。

二宮：「学校から帰ると母親が仕事を手伝っていて、『お前も手伝え!』と毎日手伝わされていた。それが嫌で嫌で仕方なかった。だから、湯本小学校高等科を卒業すると、家を出て平塚の工場の寮に入って旋盤工になった。」

昭和20年、終戦後、米国人の間で箱根細工が人気になり、職人の仕事も景気が良くなりました。

二宮家は戦中も木工の仕事を続けていて、終戦後は箱根細工職人としての仕事も忙しかったため家の仕事を手伝えることになり、16歳の頃から本格的に木工を始めることとなります。そこでまずは、小田原にできた木工養成所で秘密箱以外の木工技術を学び、その後、17歳後半頃から自宅兼工房で父親と一緒に仕事を始めたそうです。

二宮：「徒弟制度がまだ色濃く残る時代だったから、オヤジから『親子だからって甘くしてくれると思うなよ!』って、厳しく言われてね。いろいろありましたよ。」

箱根細工の仕事は、時に景気が悪く続けるのが難しい時期が4～5回あり、副業で営業の仕事をしたこともあったそうです。もういっそ、職人をやめて転職してしまおうかと思った時期もあったようですが、そんな時、昭和46年に開催された第一回箱根物産デザインコンクールに出品して特賞を受賞。その後も連続して受賞します。これが大きなきっかけとなったそうです。自分の仕事が認めてもらえたことで自信がつき、箱根細工でしっかり頑張っていこうと決心。現在まで続けてきたそうです。



↑会場の様子



↑賞状やこれまでの個展のポスター



↑記念すべき初個展のポスター



↑道具の数々



↑組木コーナー



↑からくり箱コーナー  
荷箱シリーズも展示されています。



↑秘密箱コーナー  
名品揃いです。



↑箆筥、組木五重塔、文箱など、  
貴重な作品が並びます。



←第3回コンクールの受賞作品。当時流行していた「オーバーナイター」がモチーフ。天板は「くるい」を防止するために4分割され、木目がタテヨコに組み合わされています。主な材料は「栓（せん）」。作られてから40年以上経つとは思えない、素晴らしい美しさ。  
※オーバーナイターとは、ビジネス等に必要の身の回り品を収めて置く入れ物、とのこと。

→会場の一角にあった、これまでの作品展の芳名帳。貴重な歴史の記録です。



ここで、展示作品の中から何点かの作品について詳しくご紹介します。

まずは2つセットの秘密箱をご紹介します。左下の写真・向かって右の黒い神代栗を使った作品は「4回秘密箱」。左の赤いチャンチンを使った作品は「7回秘密箱」。ここでまず最初に目に入ってくるのは、その寄木模様。これは、実は麻の葉模様を元にした寄木です。麻の葉模様のタネ木をある角度ひねり、鋸の刃もある角度傾けて切ると、この模様が出てくるのだそうです。製作の中で思いがけず現れた模様だということで、二宮本人もとても気に入っているそうです。ちなみに、両作品とも、開けると中にそれぞれ美しい寄木が施されています。しかもこの2つの秘密箱は、一緒に収納できる専用の箱（もちろん二宮お手製）も付いています。



←偶然生まれたというとても前衛的なイメージの寄木模様。箱を開けると、中にもそれぞれ異なる寄木が。左の写真で秘密箱の背後に写っているのが専用の収納箱。こちらも秀逸です。

次にご紹介するのは、代表作のひとつ「からくり箆筥」です。

これは、2000年頃に個人のお客様からの注文で作ったもので、自分用に全く同じ材料・設計でもうひとつ作り手元に置いていたそうです。箆筥本体に加え、専用の台が付いています。この箆筥は、実用性を重んじた造りで、1つの引出を除いて普通に開け閉めすることができます。

ところで、その普通には開かないただ1つの引出を開けるヒントは、側面の「棧」です。これをどうにかすると、ようやく引出が開きます。さらに、実は隠された場所があります。それがどこかは秘密ですが、とにかく、ここまではなかなかたどり着けまい！という仕掛けです。恐れ入りました！



←最後に開く「秘密の箱」。  
それはどこかという…。  
やっぱり秘密にしておきます。



ちなみに、ただ1つ  
普通に開かないのは  
この引出です。

←上半分が筆筒本体で、下半分は専用の台。  
下の台は依頼主の希望によりLP版のレ  
コードがぴったり収納できるサイズにな  
っています。いずれも美しい仕上がりです。

ところで、二宮の作品の特徴といえば、その仕上りの美しさです。特に秘密箱については、木目や寄木の模様をうまく利用し、一手目がどこなのかわからなく仕上げるとというのが、二宮本人の強いこだわりだそうです。

また、作品を実際に手に取ってみるとよく解るのですが、初めて触れた時既に、手にしっかりと馴染む柔らかさがあります。これは、元々の木の持つ柔らかさによるものだけではなく、二宮の仕上げへのこだわりあってのものなのです。二宮の、作品に対してのこのような様々なこだわりが、多くのファンを魅了するポイントなのでしょう。



来場者でいっぱいの会場。話が弾みます。

以上、取材報告でした。



↑お手製のループタイを身に着け  
来場者をお出迎えです。

## ミス・インターナショナルが箱根に来た！！

去る10月26日(月)、ミス・インターナショナルの日本での開催に合わせ、各国の美女代表が箱根を訪れました。関所からくり美術館も見学されるということで、亀井・岩原が案内役で美術館へと出向きました。

まずは入口にあるドアから。もちろん普通には開かないので亀井がレクチャー。中に入ると、今度は遊びコーナーで岩原がレクチャー。皆さんからくりの世界と箱根の風景を堪能されたようです。

同日夜には、箱根湯本のホテルを会場に歓迎パーティーが開催され、小田原市長・箱根町長はじめとする多くの方々が、ミス・インターナショナル各国代表と歓談されていました。

出席した亀井によると、「みんなそりゃあキレイだったぞ！」とのこと(笑)。  
でもほんと、皆さんとっても背が高く、おきれいな方ばかりでしたよ！



関所を背景に記念撮影。ポーズも決まっています。さすが！



↑遊びコーナーでは皆さん大盛り上がり！

←ドアを説明する亀井。  
 なんと、亀井が小さく見えます！  
 (実際ミスの方が大きいのです。  
 ヒールを履いてるし…。)

テレビ局の取材もありました。→



↓からくりから  
 ミスの皆様へ。  
 ささやかな贈り物  
 です。



関所からくり美術館の館長自ら寄木削りの実演です。そして、しっかり記念撮影。

↑ソファを体験中！



←歓迎パーティーでは  
 ドレスアップしたミスの皆さんがずらっと  
 並びました。さすがにおきれいです。  
 中には歌を披露されたミスも。  
 素晴らしいプロポーションですね～。

## クリスマスプレゼント発送作業報告

皆様、今年のクリスマスプレゼントは無事お手元にお届けできましたでしょうか？ここでは毎年恒例の発送作業の様子を少しご報告させていただきます。

普段は木工機械がずらっと並ぶからくりの工房内に、1日限定で長い長い作業台が現れます。そこに、お一人お一人分、間違いないように、発送する作品と伝票を並べ、確認を重ね、梱包作業をひたすら繰り返します。最近では手際もチームワークも良くなり、スムーズに作業が進むようになりました。

「今年は皆さんどんな風楽しんでくださるだろうか？」  
 「今年の作品は気に入っていただけるだろうか？」  
 そんなことを思いながら、職人もこの日ばかりは梱包作業に専念します。

解答は、年明け1月中旬頃お届け予定です。  
 無事開けられた方も、まだ開けられなかった方も、お届けまでお楽しみ下さい！



↑機械数台分の、長〜い作業台の登場です。



上段左端の写真のようにお一人お一人分ずつ分けて並べ、梱包します。  
梱包シラベルを貼ったら、真ん中の写真のように、積み上げておき集荷を待ちます。  
バランスが命です！  
そして、梱包作業終了後、右端の写真のように郵便局の集荷トラックならびにスタッフさんに  
全ての荷物を委ねます。無事お届けできますように！

←脇役けどとっても重要！パッキンです。  
これのおかげで、安心して荷物を送ることができます。

## 小田原地下街HaRuNe小田原 TAKUMI館 企画展示のご案内

2014年11月にオープンした小田原地下街HaRuNe小田原。ここではからくり関連の様々なイベントを開催しているのので、既にからくり新聞やHPなどを通してご存知の方が多いと思います。  
この地下街には、小田原・箱根地方の木工品を扱うお店「TAKUMI館」が入っています。ここでは毎週企画展が催されていますが、からくりも毎月第2週目（例外あり）を担当し、企画展を開催しています。

鬼が笑うとは言いますが、ここで来年の企画展をご紹介します。

### ◆ TAKUMI館 2016年のスケジュール ◆

★ 1月4日(月)～1月10日(日)「からくりクラブのご案内」  
2012年～2015年までのクリスマスプレゼントの展示。  
及び他の作品の展示販売を行います。

12月の企画展 →  
「からくり箱とクリスマス」  
クリスマスの贈り物に合う  
からくり箱の展示・販売も  
行ないました。



★ 2月1日(月)～2月15日(月)「からくりパズルアイデアコンテスト 大募集！」  
第8回からくりパズルアイデアコンテストの募集期間に合わせて、会場で皆様からのアイデアを募集します。  
これまでの入賞作品も抜粋して展示します。

★ 3月8日(火)～3月14日(月)「岩原宏志 作品展」  
からくり職人・岩原宏志の作品をずらっと展示！土日は岩原本人が会場にて作品を解説予定です。

なお、企画展開催中の土曜日・日曜日は、からくり職人が会場にて解説させていただきます。  
※TAKUMI館営業時間は 10:00～20:00 ですが、からくり職人は 10:00～16:00 在駐です。ご注意ください。  
職人が会場にいる時間帯は、工作キットをその場で作っていただくこともできます。（TAKUMI館でご希望の工作キットをご購入ください。）



一年のご愛顧に感謝申し上げます！

ほんの少し前に同じような感謝を申し上げたと思ったら、あの時からもう一年が経ってしまったのですね。この時期になると、毎年毎年同じような驚きと焦り(?)を感じます。

これからも益々皆様に楽しんでいただける作品を作っていきたいと、職人一同、心より思う年末です。

今年一年、ありがとうございました！そして、来年も宜しく願いいたします！

皆様、よいお年をお迎えください！